

平成 30 年度 第 2 回 荒尾市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日時：平成 30 年 11 月 21 日（水）午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分

場所：荒尾市役所 11 号会議室

出席者：荒尾市地域公共交通活性化協議会委員 29 名（内代理出席者 4 名）

オブザーバー 2 名 ※別紙出席者名簿のとおり

【事務局】

（政策企画課）

田川課長、林田政策経営室長、坂口、平山

1. 開会

田川課長が、開会を宣言し、資料の確認を行った。

2. 会長あいさつ

会長である田上副市長から挨拶がなされた。

- ・ 前回 6 月の会議においては、平成 29 年度の事業報告や平成 30 年 3 月に策定した「荒尾市地域公共交通網形成計画」に基づく平成 30 年度事業計画についてご説明させていただいたところである。
- ・ 当該計画の平成 30 年度進捗状況についてご説明させていただくとともに、本市と連携協定を締結している三井物産(株)様からご提案いただいている「オンデマンド型相乗りタクシーの実証実験」について協議を行うこととしているので、皆さまのご協力を賜り、忌憚の無いご意見をいただきたい。

3. 議事

（1）荒尾市地域公共交通網形成計画の平成 30 年度進捗状況について

事務局（坂口）が、資料 1-1、1-2 に基づき、荒尾市地域公共交通網形成計画の平成 30 年度進捗状況について説明を行った。

《主な質問・意見など》

- - ・ 資料 1-2 の市内高校へのアクセス強化に向けた路線再編による利用見込み及び周知方法は。
→ 昨年度実施した高校生向けアンケートの結果、30 名程度の学生が JR 南荒尾駅で下車し、通学していることが分かったため、そこから利用見込みを立てている。また、周知方法については、入学者向け説明会等でチラシを配付すること等を想定している。（事務局）
- - ・ 資料 1-1 の乗合タクシー延べ利用者数前年同月比較表を見ると、平井号は利用者が増加しているが、府本号は利用者が減少している。要因は。
→ 府本号は昨年 9 月に小学校行事で 60 名程度の小学生が乗合タクシーを利用されており、今年は当該行事が 10 月に開催されたことが要因と思

- われる。(事務局)
- ・小学校行事を考慮しても、平井号に比べ、府本号は利用者が増加していない。その要因を研究することで利用促進につなげることができると思われる。
 - ・要因を研究するにあたっては、地元の意見を取り入れることについても検討してほしい。
 - ・牛水からあらおシティモールまでのバスを増便されるということだが、来年建設予定のビジターセンターへのアクセス方法についても、今後検討してほしい。
→ビジターセンターまでの移動手段や利用見込みについて研究し、来場しやすい環境づくりについて検討したい。(事務局)
 - ・海岸線の堤防敷付近の道路通行者が増えており、交通事故の危険性が高まっている。信号を設置する等対応をお願いしたい。
 - ・後日、詳細な場所等についてご教示いただきたい。

(2) オンデマンド型相乗りタクシーの実証実験について

事務局(林田)が、資料2-1に基づき、本市と三井物産㈱の関係及びオンデマンド型相乗りタクシー実証実験に至った経緯などを説明した。その後、オブザーバーである三井物産㈱が資料2-2に基づき、会社概要及びオンデマンド型相乗りタクシー実証実験の概要について説明を行った。

協議の結果、実証実験の実施について承認された。なお、実証実験の実施期間について2週間程度に延長してはどうかとの意見もあったことから、事務局において検討し、判断は会長に一任することとされた。

《主な質問・意見など》

- ・海外で同様のサービスを利用したことがあるが、相乗りすることにより、移動時間が長くなることの課題を解決し、料金設定を明確にすることで、今後、荒尾市公共交通の核になるサービスだと認識している。また、タクシー事業の効率化により、事業者の活性化及び労働条件も改善すると思われる。本サービスが九州のモデルケースとなるよう取り組んでいただきたい。
- ・利用者の希望時間内に目的地まで移動することが基本であるが、利用料金との兼ね合いになると思われる。最短、最速で移動したい方、もしくは若干、時間がかかっても安く移動したい方がいる。本サービスは目的地への到着時刻を事前に把握することができるものであるため、利用者のニーズに応じた移動手段を活用されることがベストである。
将来的には、相乗りした人数に応じて価格が変動する料金設定についても検討している。
- ・課題については事前に想定し、利用者へのアンケート等を実施する中で、

- 是非、実現に向けて取り組んでほしい。
- ・説明の通り、来年度には荒尾市で有償による実証実験を予定している。来年度の実施に当たっては、改めて本協議会に諮り、今年度の実証実験の結果についてもお示ししながら、議論していただきたい。
 - ・今後のタクシー業については、資源の有効活用という点からライドシェアやスマホを活用して今以上に便利な乗り物になることが想定される。本サービスについては、荒尾市の 10 年後の公共交通体系の礎になると想定している。来年度以降、有償にて実証実験を行う際には、他のタクシー業者も共同で実施し、タクシー業界の活性化につなげたい。
 - ・荒尾市の中心地で実証実験を行うということで、既存の路線バスや一般のタクシー利用者が本サービスに転換すると想定される。今回の実証実験による路線バス及び一般のタクシーへの影響を分析し、情報を共有してほしい。今後、全国的に同様のサービスが展開されることも予測されるため、参考としたい。
 - ・各公共交通事業者の共存というのが重要であるため、既存の交通体系への影響についてはしっかり検証したい。
 - ・今回の相乗りタクシーは現在の道路運送法の中では認められていないものであり、あくまで実証実験という中において認められている。よって、現在の段階では実証実験後すぐに本格運行できるものではないということをご承知おきいただきたい。
 - ・長洲町が行っているきんぎょタクシーとの違いは何か。
また、本サービスを検討するにあたっては、荒尾市地域公共交通網形成計画に位置付けて取り組む必要があると思われる。既存の公共交通体系への影響を分析しながら取り組む必要があり、全体の交通体系のバランスを考慮しながら慎重に進めるべきである。
なお、周知を考慮すると 1 週間では必要なデータが得られないと思われることから、延長してはいかがか。
本サービスを商業化するのか路線バスと同様に赤字補填をするのかについては非常に重要であることから、将来的には運用形態も検討していく必要がある。
 - ・きんぎょタクシーは乗合バスという形態である一方、今回の実証実験については、本来、1 者貸し切りのタクシーにおいて乗合行為を行うという形態の違いがある。
 - ・既存の交通体系への影響を分析しながら慎重に取り組む認識でいる。実験期間については、委員の了承が得られれば 2 週間程度に延長することも検討したい。
商業化及び赤字補填の有無については、今年度の実証実験の結果を踏まえながら来年度検討したい。
 - ・本サービスは既存の交通体系の補完的な意味合いで導入することを前提

- としており、既存の交通体系を全面的に変更することは想定していない。
- ・荒尾市地域公共交通網形成計画との整合性を図ることは当然のことであるため、必要が生じた際には、本協議会の場で協議いただきたい。
(※事務局補足)
荒尾市地域公共交通網形成計画の基本的な方針 4「人口減少時代に合った最適なモビリティ関連サービスについての検討を行う。」に基づき、実施する。
- ・公共交通を考える上で、高齢者のことばかりが取り上げられがちであるが、公共交通は子供たちに残していかなければならないものであることから、持続可能な交通体系の構築という視点も重要である。
- ・本実証実験については利用されなければ意味をなさないことから周知方法については、しっかり検討してほしい。
- ・周知については荒尾市の役割であることから、荒尾市でしっかりお願いしたい。

4. その他

田川課長が、次回の会議については平成 31 年 1 月頃に平成 29 年度の事業評価について書面決議を行う予定であることについて報告した。

5. 閉会

田川課長が、閉会を宣言した。